

私の工夫

探究的な保健組織活動の実践

県立岡山南高等学校

養護教諭

岡本

真梨江



1 はじめに

私が養護教諭として大切にして
いることは、保健組織活動を生か
した実践である。日々複雑化する
健康課題と向き合う中で、前任校
の管理職から「もつと生徒に任せ
てやってみてもいいかもしれない
よ」と声をかけていただいたこと
があった。それまでも、生徒と一
緒に保健委員会活動をすすめてい
たのだが、この言葉をきっかけに、
養護教諭として、生徒と一緒に課
題に向き合うとは何か、もつと生
徒の成長につながるような学校保
健を実践したいと考えるようにな
った。あわせて、うまくいかなか
ってもいい、たとえ失敗しても、そ
の時はもう一度立ち返って生徒と

一緒に進めていったらいいとい
う探究のプロセスにヒントを得て、
自分らしい保健組織活動の実践が
始まった。現在は、生徒保健委員
会活動を中心に、学校保健の充実
と推進を目指し、取り組んでいる。
今回はこれまでの保健組織活動の
実践について紹介する。

2 保健組織活動の実践に 向けて

(1) 環境を評価する

まず、組織活動を進めていく上
で最も重要なことは、生徒はもち
ろん、生徒を取り巻く環境を把握
し、評価することである。生徒は
どんな集団であるか、課題は何か、
強みは何か等である。組織活動に

(2) 細やかな目標設定

課題に合わせて長期目標と短期
目標に区別し、アプローチの仕方、
評価のタイミング、実践方法の修
正の3つを意識して進めている。

において、教職員や保護者、地域と
どのように連携が図れるか捉えて
おくことも重要である。現状把握
と分析をすることで、活動の幅や
課題解決に向けた方法の選択肢が
広がると考える。

実施月	対 象	内 容	指導者
6月	全校生徒	メディアと目の健康に関するアンケート (説明・実施・回収)	担任
8月		メディアと目の健康に関するアンケート (集計・分析方法の検討)	OJT教員 チーム
9月	生徒保健委員会	メディアと目の健康に関するアンケート (結果の分析)	養護教諭
9月・10月	全校生徒	スマホ・ネットの付き合い方チェックシート (実施 結果の返却 保健教育)	担任 生徒保健委員
11月	生徒保健委員会	探究学習に挑戦 「メディアが生活に及ぼす影響について」	OJT教員 チーム
12月	生徒保健委員会 教職員	探究学習報告会	OJT教員 チーム
1月	学校保健委員会 (学校医・保護者・ 教職員・生徒)	学校保健委員会 探究学習について成果報告	養護教諭 生徒保健委員

資料1 短期目標に関する年間計画の例

3 実践紹介

(1) 生徒保健委員会

生徒保健委員会では、活動テー
マを毎年設定し、健康課題解決に
向けて1年生から3年生の総勢48
名を複数の班に分けて活動をして
いる。生徒が主体的に課題解決に
向けて計画を立案し、学びを広く
発信することで、学校保健の充実
を目指している。

班づくりのコンセプトは学校や
生徒の強みを生かした活動の展開
である。テーマの検討、活動人数、
活動条件等、班活動を促進するた
めの仕掛けを十分に整えておくこ
とで、生徒の力が何倍にもなり活
動の勢いとなる。ここからは、班
活動の一部を紹介する。

成果はわかりやすいものばかりで
はなく、生徒や学校全体の変容に
は十分時間を必要とする場合もあ
る。そのため、細やかな目標設定
と計画のもとで実践することによ
り、組織活動の厚みも増し、学校
教育目標の実現にも寄与すると考
える。

①健康講座企画班

生徒が自ら、健康講座を企画し、講師交渉から、運営までを行う。生徒同士で課題解決の提案を行うことで、課題を身近に感じることを目指している。講師へ初めて連絡をした際には、日程調整をするだけでも苦労したが、講師からオンラインミーティングの提案があった際には、初めは戸惑っていた生徒も、意見交換を活発に行い、当日は「自分たちの聞きたい！」が詰まった健康講座の実施ができた。

②フィールドワーク班

校内外の教育資源に注目し、時には学校外へ出向き、学びを深める活動を中心としている。実際には、自分たちの活動の目的や課題を相手に伝えることは容易ではなく、思った以上に困難なこともあった。その都度、班で話し合いを行い、改善を繰り返した。生徒は伝える難しさを感じると同時に、伝わった際の喜びやアウトプットに必要な工夫を発見する等多くの学びを得ることができた。地域保健センターへ依頼をした際に

は、岡山市の健康課題の学習に加え、栄養委員へのインタビューや栄養教室の見学を行った。丁寧な打ち合わせの成果が実り、地域の方と充実した活動を行うことができた。多くの人と関わりながら課題を見つめ、解決に向けてのヒントを得る機会にもなったようだ。



資料2 地域保健センターでの打ち合わせ

③情報発信班

校内放送や動画、保健だよりを作成し、情報発信を行う。効果的なタイピングで発信する工夫や、教職員にも参加を依頼し、学校全体で課題を意識できるよう心がけている。保健だよりは配信形式にすることで、より分かりやすく、手軽に情報を得ることができ

るよう工夫をしている。



資料3 始業式で作成動画を発信

(2) 学校保健委員会

年度末に開催する学校保健委員会では、従来の報告に加え、委員会活動の成果報告を行い、学校医や保護者から活動の講評をいただいている。次年度に向け、取組の評価や計画の作成に生かし、組織全体で課題解決を目指す。

(3) 教職員研修

教職員の組織力も重要である。学校安全をテーマに取り組んだ際、機能する危機管理体制づくりを課題とし、教職員研修を見直した。あらかじめ決められたシナリオを実践する研修ではなく、大まかな場面設定のみを提示し、課題を発

見する研修に変えたことで、学校の現状把握と改善に向けて共通理解をすることができた。課題と目標のギャップに戸惑うのではなく、現状について共通認識を持つことで、課題解決に向けた学校全体の意識や、組織力の向上につながったと考える。

4 まとめ

一年間の活動を振り返る際、「自分に役割があつて良かった」という生徒の感想を見つけた。生徒と一緒に悩みながら課題解決を目指すことは思った以上に大変なこともある。しかし、生徒が活動を通じて自分の思いをかたちにできた時の喜びや発見は、これから社会で活躍する生徒にとって大きな力になると信じている。生徒と教職員が自ら課題解決に向かう力を引き出す保健組織活動にするには、分析力やマネジメント力が必要である。これから、自己研鑽を続け、組織力の向上と強みを生かした学校保健の実践に取り組んでいきたい。